

第99回米国内分泌学会にてストレスと女性ホルモンに関する研究を発表しました (2017/4/1-4)

テーマ：ストレスと女性ホルモン

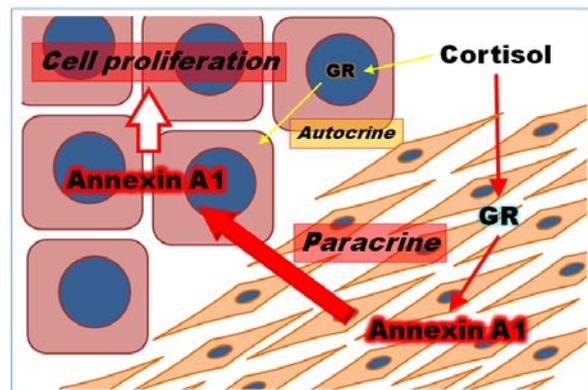
場所：Orange County Convention Center (Orlando, USA)

災害産婦人科学分野の研究の一つである「災害ストレスと婦人科疾患」について、当研究所の三木康宏 講師（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野）が、世界最大の内分泌学会である米国内分泌学会にてポスター発表しました。なお、本研究は本学医学系研究科との共同研究として行われました。

タイトル：Annexin A1 induced by intratumoral cortisol in endometrial cancer microenvironment (子宮内膜癌微小環境において腫瘍内コルチゾールはアネキシン A1 を誘導する)

演 者：Yasuhiro Miki, Misaki Fue, Kiyoshi Takagi, Takashi Suzuki, Kiyoshi Ito
 (下線は災害産婦人科学分野所属)

災害産婦人科学分野ではストレスを受けることによって分泌されるコルチゾールに着目し、女性生殖器へのストレス-コルチゾール作用を検討しています。これまでにコルチゾールが子宮内膜癌組織中で女性ホルモンの合成に関わる酵素を誘導することを明らかにしてきました。一方で、コルチゾールが子宮内膜癌組織中で高い症例では、癌が増殖するなどの悪性度を増すことを見出しており、今回、そのメカニズムとしてアネキシン A1 というタンパクに関する検討を行いました。アネキシンは他のタンパク質に結合し、その機能を調節すると考えられています。アネキシン A1 の遺伝発現を調節する領域にコルチゾール受容体 (GR) 結合領域が存在するため、コルチゾールによってアネキシン A1 量が直接、増加すると考えられます。我々の研究から、コルチゾールによってアネキシン A1 が癌の周囲の細胞から放出され、さらに癌細胞に作用して増殖を促すのでは考えられます。今後、アネキシン A1 の増殖までの経路を明らかにしていきたいと考えています。



左上：会場の Orange County Convention Center

左下：ポスター発表の会場の様子

右上：結果のまとめ